

愛知博物館

1970年

№ 16



愛知県博物館協会

目 次

「第2回文化財探勝会」によるアンケート

調査について	大 竹 勝	1
愛 知 の 博 物 館 展	田 中 立 子	2
県 外 研 修 会 を 終 っ て	金 子 功	3
県 内 研 修 会 に つ い て	滝 本 正 二	4
昭 和 4 4 年 度 決 算 書		5
昭 和 4 4 年 度 事 業 報 告		6
昭 和 4 5 年 度 予 算 (案)		7
昭 和 4 5 年 度 事 業 計 画 (案)		8
愛知県博物館協会加盟施設一覧		8

「第2回文化財探勝会」による

アンケート調査について

大 竹 勝

観光バスを利用して西三河において「文化財めぐり」が、参加対象を西三河の小・中学校社会科担当教師にしぼって、昭和44年9月23日、東岡崎駅前を基点に、華藏寺、大樹寺、豊田郷土資料館、香積寺のコースで行なった。参加人数47名、内事務局7名。この機会を利用して、以下のような設問のアンケート調査を試みた。件数が少なく統計資料として充分でないので、その傾向を報告するにとどめる。

1. 愛知県下には次のような博物館施設があります。今までに行ったことのあるところへ○印をつけ、又その回数を()内に記入して下さい。(愛博協加盟館列举)
2. 「博物館」は何をするところだと思いますか。
3. 本日の「第2回文化財めぐり」についてご意見、ご感想をおきかせ下さい。
4. 今後の開催についてご希望をおきかせ下さい。

このアンケートは氏名・住所・所属・年齢性別を記入したもので、参加者全員に配布したもので回収枚数32枚(男23、女9)、小学校教師18名、中学校教師12名、所属記述のないもの2名である。

設問1について

個々の博物館についての細かい記述は省略し、全体の傾向を述べる。第一に観光地的博物館利用であることがいえる。図に表れたように、名古屋、犬山、蒲郡、鳳来町にかたよっている事。第二に反復利用が少ないこと。1回だけの利用例が212と非常に多く、2回はその1/4以下に激減し、3回はその1/2に、4、5回は又その1/2、6回以上もその1/2と反復利用が低下している。利用回数の多い博物館は学校遠足に利用されたものと、特別展示をする美術館に限られているようである。図で見ると地域の博物館とのつながりは少ないようである。

設問2について

ここでみられる傾向は、博物館の性格をこの人達は把握していないようである。半数の

人は、保存、展示、教育について何らかの回答を出しているが全体を理解していない。又収集、調査研究についての回答は非常に少ない。大体博物館の性格について20%ぐらいの理解しか持っていないようである。

設問3、4について

ここでは意見と感想を求めている。ここではその主な意見だけを取り出して列挙してみる。○知らなかった郷土の文化財の発見。○時間の不足、○説明の不足、○大変良いので続けてほしい、○テーマ別に、○専門的講義も、○他の地域にも、等の意見が述べられている。

この調査で感じたこと

先づ感ずることは博物館についてその性格、利用のしかたが理解されていないことである。それも小・中学校社会科担当教師においてである。一般の理解度も推測することが出来る。博物館としては、もっと、地域社会に対する博物館の働きかけとPRの必要性があることと、このような催しにも、バスの中でレクチャーを併用し、博物館を理解させる必要がある。又系統的学習コースの選定といった、愛博協が主催するからにはそれだけの特長を打出す必要がある。そういった配慮に欠けると観光業者の団体見学会に終る可能性が強いと思われる。

(日本モンキーセンター附属博物館学芸員)

博物館に行った事のある人数と場所
×印 調査対象者の勤務地



愛知の博物館展

田 中 立 子

愛知県博物館協会では、博物館週間になんで愛知県下の博物館を紹介し、博物館を知ってもらうために、「あいちの博物館展」を10月1日より5日間開催しました。場所も名古屋祭りの準備等で忙がしいにも拘わらず市立名古屋科学館の展示会場を借りることができ、広報面で出足が遅れたことはいえなくても、博物館普及活動の試みとして一つの成果を協会にもたらしただけではないかと思われまふ。

この企画を担当した一人として、思いついたことを記し、次回への何らかの参考になればと思います。特に今回、日本モンキーセンター附属博物館としては、「野猿公苑」は野外の博物館です。」というテーマのもとに、社会教育の場としての野猿公苑を、写真、子供達の描いた絵、サルの音声などをもちいて紹介してみました。各館とも、自らの館をこんな形で表現する機会を充分にもっているとはいえなかったのですが、この展示会に何らかの形で参加したいと、各コーナーごとにパネル或いは、印刷物等を持ちより、小さな郷土館も、写真一枚の形で参加してくださったことは何よりの喜びでした。

「博物館は市民のための大学です。」という統一テーマをうちだすことに決定しました。そこで、なるべく、自然とか、人文とかいった資料別の分類にこだわることなく、その機能を紹介できればと思い、単なるパネル展示に終わらないようにと、各館とも打ち合わせをしたものですが、自らの館をPRするということは非常にむづかしいということが痛感されました。が、県下の博物館が、いろいろな形で協力しあえる体制は、博物館人としての自覚のうちに作りあげられなければならない

いでしょう。展示会を終えた後の反省会の上で、次年度には愛知県下にある、博物館機能的結びつきを更に資料により、明確に打ち出して展示してみたいという意見が出されたのも、興味ぶかいことでした。

又、4日5日の両日には「ニホンザル」、「モンシロチョウ」、「尾瀬」の16mmフィルムが上映され、かなりの人気を呼びました。これは、当初、各館がスライド等を用いて、自らの館を紹介する講演会を組んでみたいと思っていた企画でしたが、結局は時間、その他の余裕がなく、各館の自主企画にもちこみず、文化映画上映に終わってしまったことに、残念なことでした。

それでも、5日間を無事に終えた私達は、市民社会の中に、博物館が入りこんでゆくために、次年度も何らかの形で、博物館が多くの人と触れあう場を実現したいものだと思わずにはいられませんでした。

(日本モンキーセンター附属博物館学芸員)

あいちの博物館展

— 博物館へどうぞ —

時：昭和44年10月1日(水)

～5日(日)

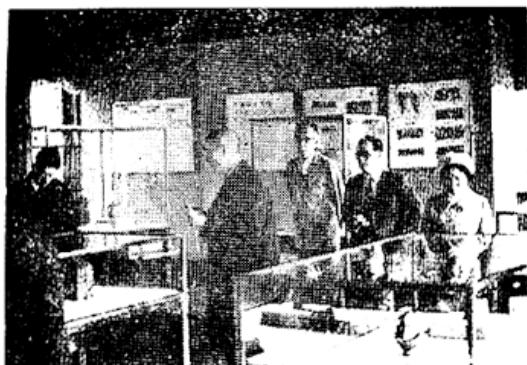
所：市立名古屋科学館

主催：愛知県博物館協会

後援：愛知県教育委員会

名古屋市教育委員会

毎日新聞社



県外研修会を終って

金子 功

－ 準備 －

例年の行事となった県外研修会が本年は関西方面と決まり、私が準備を担当する事になりましたので、9月の末から関西地方の主な博物館を調べて参考になりそうな所を拾い出してみました。

昨年はマイクロバスを使用して出発から帰着までの団体行動をとっていましたが、今回は参加者の数をはっきり知ることができないので思い切って現地集合、現地解散という方法をとる事にしました。

従って一般交通機関を利用する事を考えると市外に回る事は時間的に困難な事になりますので、京都と神戸の両地区のなかで自然、人文、理工学と各館に興味のある所を選定してみました。その結果

京都国立博物館、京都府立総合資料館
京都市青少年科学センター 白鶴美術館
神戸国際港湾博物館、兵庫県陶芸博物館
須磨水族館、神戸市立考古館
神戸市立南蛮美術館

等を候補に上げてみました。

私はまだ一度も訪ねた事のない館もありますので、10月末に一度これ等の館にお願いかたがた事前にコースを歩いてみようと思って現地へ連絡に参りました。その中で京都青少年科学センターは何度も訪ねておりますし職員の中にも知人が多いので様子もわかっておりました。また府立総合資料館も博物館の新しいあり方として興味を持っていたのでお訪ねしましたが、国立博物館は協会事務局から連絡して頂きました。

兵庫県は関西地区には珍らしく県の博物館協会が組織されているので県庁内の事務局をお訪ねして関係館園に宜しく御連絡頂くことをお願いした後、会長である南蛮美術館長を訪ねて御意見を伺いました。

その結果、白鶴美術館、港湾博物館、須磨水族館、市立考古館、陶芸館を予定しました

(陶芸館はあいにく展示替えのため中止)

以上の連絡の終わったところで協会事務局に後の事はお願いして各館への正式依頼、宿舎の手配当万事事務局にお骨折り頂きました。

－ 第一日 －

私は都合で国立博物館は回らずに府立資料館から回りましたが、いずれもゆきとどいた御案内を頂いて参加者それぞれ得る所が多かったと思います。特に青少年科学センターでは館内見学のとセンターの職員を交えて意見交換の時間を充分とって頂くことができましたことは有意義でした。不便な場所でしたのでタクシーがなかなか来ないのでセンターの職員の車まで動員して宿舎まで御送り頂いた事はありがとうございました。

－ 第二日 －

寒い朝でした。自動車のガラスが真白に凍っていたのに驚きました。

それぞれの交通機関で神戸に向かって白鶴美術館へ。10年程前に訪ねた時には緑の山の中と思ったのですが、すっかり住宅地の中に囲まれ、ダンブカーが隣の道を走り回っているのに驚きました。

午後は国際港湾博物館の見学を終って後は希望に従って水族館、考古館等を見学、現地解散致しました。このあと明石天文科学館まで足を伸ばした人も中にはあったようです。

－ 終って －

県外研修会も昨年以來2回行なわれたわけですが、今までのように単なる施設見学だけではなく、実務的な内容でも良いからハッキリした目標を持って一日一館でも充分時間をかけて視察する事が必要ではないかとの感を強くしました。例えば国立博物館で資料の受入整理の勉強とか、青少年科学センターでは教育を中心とした事等をもっと掘下げて調べるとか量より質の視察ができればよかったと今になって反省している次第です。

(豊橋向山天文台長)

県内研修会について

滝 本 正 二

昭和44年度県内研修会は、3月20日午前10時より、市立名古屋科学館実験室において、県内各施設並びに共立女子大学より20名が参加し、

“メモーションカメラによる見学者行動調査（カメラによる撮影と分析の実際）”

“米国カーネギー博物館の教育活動”

のテーマで開催された。

メモーションは、1秒に1コマとか、1分100コマといった遅い速度で撮影し、長時間にわたる人間の行動や現象の進行を短時間に圧縮して示すもので、ストップウォッチ時間研究とワークサンプリングの利点をかねそなえた方法として、教育、産業、医学、交通等あらゆる分野で広く活用されている技法であるが、従来の16ミリ機材に代わる8ミリ機材の出現で、更にその操作の単純化が期待され、博物館における見学者行動の分析等に大いに活用されると考えられる。

今回の研修会では、このようなメモーション技法の概要、その応用、機器の取扱い方等について説明が行われた後、科学館地下1階展示室並びに日本モンキーセンター附属博物館ビジターセンターにおける見学者行動のフィルムが上映された。

日本モンキーセンター附属博物館では、本機購入後、

“表示板は読まれているか”

“どのような行動軌跡が現われているか”

“見学態度の特色パターン（手・足・体・顔型の分類）”

“滞留時間の測定”

“見学同伴者との関係”

“投餌行動の頻度”

“サルの対応差”

等の目標に基づいてメモーション技法による調査を実施中であるということが明らかにされ、今後更に分析手法を検討し、博物館活動を高めて行きたいとのことであった。

なお、関係文献として

“国立科学博物館の入場者実態調査について”（博物館研究1961 vol.134-12号）

“博物館における観覧行動軌跡”（博物館研究1964 vol.37-2号）

“博物館利用者：行動学的分析その1.2.3”（博物館研究1967 vol.40-1.23号）

“観覧順路に関する1.2の課題”（博物館研究 vol.40-3号）

等が紹介された。

この後、昨年アメリカの博物館事情を視察された日本モンキーセンター附属博物館広瀬学芸部次長より“カーネギー博物館の教育活動について”というテーマで、カーネギー博物館の教育活動を支える機構、教育担当者とその実態、展示並びに教育活動等がカラースライド併用で詳細な報告解説があり、“博物館における教育とは何か”という基本的課題について説明が加えられ、活発な意見交換の後午後3時散会した。

（市立名古屋科学館）

昭和 4 4 年 度 決 算 書

収 入 の 部

費 目	当初予算額	補 正 額	現計予算額	決 算 額	差引過不足	摘 要
会 費	41,000 ^円	△ 2,000 ^円	39,000 ^円	39,000 ^円	0 ^円	2 6 館 3 9 口
県費助成金	300,000	0	300,000	300,000	0	
加盟館負担金	130,000	120,000	250,000	250,000	0	
参加者負担金	110,000	△35,000	75,000	72,500	△ 2,500	
雑 収 入	894	1,500	2,394	1,739	△ 655	預金利子
繰 越 金	21,606	0	21,606	21,606	0	前年度よりの繰越金
計	603,500	84,500	688,000	684,845	△ 3,155	

支 出 の 部

費 目	当初予算額	補 正 額	現計予算額	決 算 額	差引残額	摘 要
講 師 謝 金	15,000 ^円	△15,000 ^円	0 ^円	0 ^円	0 ^円	
印刷製本費	165,000	75,000	240,000	229,000	11,000	
通信運搬費	36,460	△21,460	15,000	8,305	6,695	
会 議 費	82,750	△40,750	42,000	40,970	1,030	
食 糧 費	10,000	0	10,000	8,800	1,200	
借 上 料	50,000	△10,000	40,000	39,980	120	
旅 費	55,200	0	55,200	54,270	830	
看板広告料	130,000	130,000	260,000	259,200	800	
消耗品費	31,300	△31,300	0	0	0	
手 数 料	4,000	2,000	6,000	6,000	0	
東海博負担金	10,000	0	10,000	10,000	0	
雑 費	13,790	△ 3,990	9,800	4,500	5,300	
計	603,500	84,500	688,000	661,025	26,975	

差引残額 23,820円は 45年度へ繰越

昭和44年度事業報告

(1) 研修会の実施

イ 県外研修会

日時 44年11月26日～27日

参加館 加盟8館 11名

視察経路

京都国立博物館 — 京都府立総合資料館 — 京都市青少年科学センター —
白鶴美術館 — 神戸国際港湾博物館 — 須磨水族館
神戸市立考古館
明石天文科学館

ロ 県修会

日時 45年3月20日

会場 市立名古屋科学館

研修課題 「メモーションカメラによる見学者行動調査」

(カメラによる撮影の実際と分析の実際)

講演演題 「カーネギー博物館の教育活動」

講師 日本モンキーセンター附属博物館学芸部次長 広瀬 鎮

参加館 加盟7館 20名

(2) 印刷物の配布

イ 壁新聞の配布

「愛知県博物館要図」を作成し県下の公立小・中・高校(1,200余校)あて配布

ロ 「愛知県の博物館」改訂版を作成、加盟館等に配布

ハ 機関誌の発行

「東西南北」 №21～№31

「愛知の博物館」 №14・15 №16

(3) 全国博物館週間行事

「文化財探勝の会」

日時 44年9月23日

参加者 47名(西三河地方の小・中学校に勤務する社会科担任教師等)

探勝経路

華蔵寺 — 大樹寺 — 豊田市郷土資料館 — 香積寺

(4) 「愛知の博物館展」実施

日時 44年10月1日～10月5日

場所 市立名古屋科学館

参加館 加盟 20館

(5) その他

総会 44年4月24日、理事会 44年4月24日

実行委員会 44年4月28日、9月25日、11月6日、45年2月25日 } 実施

昭和45年度予算(案)

収入の部

支出の部

費 目	予 算 額	摘 要	費 目	予 算 額	摘 要
会 費	37,000 ^円	26施設 37口	会 議 費	33,550 ^円	総会費 250円×35名 役員会費 250円×8名×4回 役員会出席者旅費 4,200円×4回
県助成金	300,000		壁新聞費	42,000	印刷製本費 40,000円 通信運搬費 2,000円
加盟館金	223,000		県内研修費	15,900	講師謝金 10,000円 食糧費 5,000円 通信運搬費 15円×30名×2回
参加者金	28,000	研修会 200円×20名×2回 文化財探勝会 500円×40名	機関誌費	25,600	「東西南北」印刷費 800円×12回 通 信 費 15円×30名×12回 「愛知の博物館」印刷費 10,000円 通 信 費 20円×30名 借料及損料 46,000円 食糧費 200円×50名 借料及損料 350,000円 印 刷 費 20,000円 消耗品費 10,000円 食糧費 5,000円 消耗品費 5,000円 通 信 費 15円×30名×3回 旅 費 30,000円
雑収入	1,180	預金利子等	文化財探勝会費	56,000	
繰越金	23,820	44年度より繰越	展覧会費	385,000	
			事務費	36,350	
			負担金	10,000	東海博負担金
			予備費	8,600	
計	613,000		計	613,000	

昭和 4 5 年度事業計画（案）

(1) 研修会の実施

博物館関係施設に勤務する職員の資質の向上を図る目的で人文・自然・理工の各分野における技術研修会を実施する。

研 修 会 年 2 回

(2) 印刷物の配布

博物館事業に対する一般の関心を高めるとともに、館相互の連絡、研修の目的で印刷物を作成配布する。

イ 壁新聞の配布

県下の小・中・高校に配布 年 1 回

ロ 機関誌の発行

「東西南北」 月 1 回

「愛知の博物館」 年 1 回

(3) 全国博物館週間行事（10月第2週）

教職員の参加を得て県内の博物館及び文化財を巡回して、博物館利用を教職員を通じて一般に広めようとする。

(4) 「愛知の博物館展」の開催

愛知県博物館協会加盟施設一覧

施 設 名	所 在 地	電 話
<尾張地区>		
国 宝 犬 山 城	犬山市大字犬山字北古券 6 5-2	<0568>61-1711
ラインパーク犬山自然植物園	犬山市大字犬山字官林 2-1	<0568>61-0870
日本モンキーセンター附属博物館	犬山市大字犬山字官林 2 6	<0568>61-3919
博 物 館 明 治 村	犬山市大字内山 1	<0568>67-0314
小 牧 市 歴 史 館(小牧城)	小牧市大字小牧 6 3 3-1	<0568>77-4248
常 滑 市 立 陶 芸 研 究 所	常滑市字樋掛 4 5	<05693> 5-3970
<名古屋地区>		
名 古 屋 城 天 守 閣	名古屋市中区本丸 1-1	<052>231-1700
市 立 名 古 屋 科 学 館	名古屋市中区栄二丁目 1 7-2 2	<052>201-4486

施 設 名	所 在 地	電 話
徳川美術館	名古屋市東区徳川町2-27	<052>961-9261
真福寺文庫（大須文庫）	名古屋市中区門前町4-40 （大須観音宝生院内）	<052>231-6525
切支丹遺蹟博物館	名古屋市中区東橋町2-70（栄国寺内）	<052>321-5307
愛知県文化会館美術館	名古屋市東区久屋町8-8	<052>971-5511
名古屋市豊清二公顕彰館	名古屋市中村区中村町茶の木12	<052>411-5228
名古屋市東山動植物園	名古屋市千種区東山元町2-215	<052>781-1131
熱田神宮宝物館	名古屋市熱田区新宮坂町1	<052>671-4151

<三河地区>

豊田市郷土資料館	豊田市陣中町3-33	<0565>32-6561
蒲郡市竹島水族館	蒲郡市竹島町1番6号	<05336>8-2059
蒲郡フラワーパーク	蒲郡市府相町相乗地先	<05336>8-7382
渥美フラワーセンター	渥美郡渥美町大字堀切	<05313>5-6141
豊山会館	渥美郡田原町大字田原巴12-1	<05312>2-1700
豊橋向山天文台	豊橋市向山東町44	<0532>52-4489
大原薬業資料館	新城市字町並203	<05362>2-0003
鳳来町立長篠城跡史跡保存館	南設楽郡鳳来町長篠字市場22-1	<053632> ^{51~53} ₁₆₂
鳳来寺山自然科学博物館	南設楽郡鳳来町門谷字森脇6	<053635>1
東栄町総合文化センター	北設楽郡東栄町大字本郷字大森	<05367>6-0437
東栄町立郷土博物館	北設楽郡設楽町大字田口字辻前33-1	<05366>2-0004

（注）開館時間、休館日等各館で違いますのでおいでの際には直接おたずね下さい。

「愛知の博物館」 №16

発行日 1970年4月

発行者 愛知県博物館協会

名古屋市東区久屋町8-8

愛知県文化会館内（電<052>971-5511）

編集者 愛知県博物館協会実行委員会